

NZワイナリー日記

木村滋久の

第4回「ニュージーランドの文化とワイン造り」



ニュージーランド人の国民性

みなさん、ニュージーランド（以下NZ）人はどんな国民性を有し、どんな人たちがワインを造っているかご存じでしょうか。彼らはフレンドリーで、人間性がとても良いと言われていました。私のような海外からの移民には有難いことに、時折に見受けられるような人種差別はほとんどありません。むしろ日本語が学校の選択科目にあったり、親日家が多い国と言われていました。またNZ人にはマイペースな方がとても多く、ここにいると私を含め多くの日本人が「自分は実はとても几帳面な人間だったのでは!？」と、感じてしまう事がよくあります。そんな対極な一面はありますが、私たち日本人と通ずる気遣いや、優しい気質に日々感銘を受けています。

がらも、海外で学んだ昔ながらの伝統も上手に使い分けているのです。そしてフレンドリーな人柄で、好奇心旺盛なNZの造り手たちは、他社の生産者とも情報交換を惜しみなく行ないます。「好きこそ物の上手なれ」と言いますが、この国のワイン産業がここ数十年で大成した背景には、そんな理由があるように思います。そんな情熱溢れるNZのワインメーカーたちですが、オンとオフが驚くほどハッキリ。日本では仕事が第一で家庭は二の次という風景が見られますが、NZの生産者たちは、家族やプライベートのための時間を最優先に考えます。慌ただしい都心で生まれ育った私は、そのギャップに最初戸惑いを覚えました。今は家族を大切にできる環境に、喜びを感じています。

ワイン造りに携わる ニュージーランド人たち

そんなマイペースなイメージとは対照的に、NZのワインメーカーは安定した高品質のワインを産出することでよく知られています。個人的な意見かもしれませんが、NZのワイン業界に情熱家の多いことが、最たる理由の一つだと思っています。ほとんどのワインメーカーが、大学でワイン醸造学を修めたのち、世界各地のワイン産地で修行を積み、その後自国に定住し活躍しています。NZの造り手たちは、新しい技術を取り入れな

そんなNZのワインメーカーの中から、今回は私の一押しを生産者を紹介いたします。

Te Whare Ra (TWR)、写真にもある家族経営のワイナリーです。飲むと自然と笑顔になってしまう、そんな素敵なワインを造っています。



ラベルは、原住民のマオリ語で「太陽の家」を意味する

